

須磨鉢伏山と有馬富士公園の興味深いキリガ

阪上洸多・船元祐亮・安達誠文・小西堯生

1 はじめに

キリガとはヤガ科のセダカモクメ亜科及び、ヨトウガ亜科の一群の俗称で晩秋と早春に活動する。このキリガと称される一群は環境によって種類や個体数が変わることが知られている。

この度、この2つの環境からその場所の植生をよく表す種、他ではあまり見られない種が採集されたのでそれらを紹介する。

有馬富士公園はキリガについてはまったく調査されていなかったため、今回が初めての情報となる。

2 調査地とその方法

調査地の須磨鉢伏山は、兵庫県神戸市須磨区の海岸沿いの標高246mの山である。植生は照葉樹が主である。有馬富士公園とは、兵庫県三田市の福島大池周辺の公園である。須磨鉢伏山は鉢伏山山頂と鉢伏山山頂～旗振茶屋までの尾根道の2地点、有馬富士公園では、水辺の生態園と水辺の生態園～林の生態園の道、林の生態園の3地点で調査した。

調査方法は糖蜜(黒砂糖、酒、酢を混ぜたもの)を霧吹き、もしくはコットンに染み込ませ、歩道沿いの木に貼り付け、キリガを誘引し調査した。有馬富士公園はアセビ、須磨鉢伏山は灯火に飛来したデータも含む。

調査日は有馬富士公園では2008年3月12日、15日、20日、23日の4回で、須磨鉢伏山では2007年11月17日、23日、同年12月16日、21日、26日、2008年4月3日の6回である。

3 調査で採集されたキリガ

採集者名、採集方法は、記述がない場合は、全て阪上洸多、糖蜜採集。採集者敬称略。

須磨鉢伏山

ヨトウガ亜科

チャイロキリガ 2008.4.3,1ex.(小西堯生採集)

ホソバキリガ 2008.4.3,1ex.(小西堯生採集)

セダカモクメ亜科

ヤクシマキリガ 2007.12.16,7exs., 2007.12.26,3exs.

イチゴキリガ 2007.12.26,1ex.

サヌキキリガ 2007.11.17,1ex., 2007.11.23,1ex.(安達誠文採集), 2007.12.21,3exs.(小西堯生採集), 2007.12.26,2exs.

アヤモクメキリガ 2007.12.26,3exs.

ホソバオビキリガ 2007.11.17,1ex.

ホシオビキリガ 2007.11.17,1ex., 2007.12.16,4exs., 2007.12.21,3exs.(小西堯生採集), 2007.12.26,4exs.

ミヤマオビキリガ 2007.11.23,2exs.(安達誠文採集), 2008.4.3,1ex.(小西堯生採集)

テンスジキリガ 2007.12.21,1ex.(小西堯生採集)

ナワキリガ 2007.12.21,1ex.(小西堯生採集)

カシワオビキリガ 2007.12.21,4exs.(小西堯生採集)

Conistra sp. 2007.12.16,1ex., 2007.12.26,9exs.

アオバハガタヨトウ 2007.11.17,1ex.

ノコトガリキリガ 2007.11.17,2exs., 2007.11.23,3exs.(安達誠文採集), 2007.12.16,2exs., 2007.12.21,3exs.(小西堯生採集), 2007.12.26,2exs.

キバラモクメキリガ 2007.11.17,2exs., 2007.11.23,3exs.(船元祐亮採集), 2007.12.16,3exs.

ハネナガモクメキリガ 2007.11.17,2exs., 2007.11.23,3exs.(船元祐亮採集), 2007.12.16,1ex.

スギタニモンキリガ 2007.11.23,2exs.(安達誠文採集), 2007.12.21,1ex.(小西堯生採集)

Sugitania.sp 2007.11.17,3exs., 2007.12.16,3exs., 2007.12.26,4exs.

カシワキボシキリガ 2007.11.17,2exs., 2007.11.23,1ex.(船元祐亮採集), 2007.12.16,6exs., 2007.12.21,1ex.(小西堯生採集), 2007.12.26,1ex.

キトガリキリガ 2007.11.17,8exs., 2007.11.23,1ex.

(安達誠文採集), 2007.12.16, 1ex.
 ナカオビキリガ 2007.11.17, 1ex.
 ハンノキリガ 2007.12.16, 2exs., 2007.12.21, 1ex.
 (小西堯生採集)
 クロチャマダラキリガ 2007.11.23, 1ex. (船元祐亮採集), 2007.12.16, 1ex., 2007.12.26, 3exs.
 チャマダラキリガ 2007.12.16, 3exs., 2007.12.21, 1ex. (小西堯生採集)
 フサヒゲオビキリガ 2007.12.16, 24exs., 2007.12.21, 4exs. (小西堯生採集), 2008.4.3, 1ex. (小西堯生採集)
 ヨスジノコメキリガ 2007.11.23, 2exs. (安達誠文採集)

有馬富士公園

ヨトウガ亜科

ホソバキリガ 2008.3.12, 3exs., 2008.3.15, 2exs., 2008.3.20, 1ex.
 クロテンキリガ 2008.3.12, 2exs.
 クロミキリガ 2008.3.23, 2exs. (アセビに飛来), 2008.3.23, 1ex. (安達誠文採集)
 スモモキリガ 2008.3.12, 11exs., 2008.3.15, 5exs., 2008.3.20, 5exs., 2008.3.23, 1ex., 2008.3.23, 2exs. (安達誠文採集)
 ブナキリガ 2008.3.12, 1ex., 2008.3.15, 2exs., 2008.3.23, 1ex. (安達誠文採集)
 カバキリガ 2008.3.20, 1ex., 2008.3.23, 1ex. (アセビに飛来, 安達誠文採集)
 シロヘリキリガ 2008.3.23, 1ex. (アセビに飛来)
 チャイロキリガ 2008.3.23, 1ex. (アセビに飛来, 安達誠文採集)
 マツキリガ 2008.3.23, 1ex. (アセビに飛来, 安達誠文採集)

セダカモクメ亜科

ハンノキリガ 2008.3.20, 3exs.
 カシワキボシキリガ 2008.3.15, 2exs.
 ウスミモンキリガ 2008.3.12, 2exs., 2008.3.23, 1ex. (安達誠文採集)
 ミツボシキリガ 2008.3.12, 1ex., 2008.3.20, 3exs.,

2008.3.23, 1ex. (安達誠文採集)
 イチゴキリガ 2008.3.12, 1ex.
 ゴマダラキリガ 2008.3.12, 1ex., 2008.3.23, 1ex. (安達誠文採集)
 ミスジキリガ 2008.3.12, 1ex.
 ホシオビキリガ 2008.3.12, 2exs., 2008.3.15, 2exs., 2008.3.20, 3exs., 2008.3.23, 2exs., 2008.3.23, 5exs. (安達誠文採集)
 カシワオビキリガ 2008.3.23, 5exs. (安達誠文採集)
Conistra sp. 2008.3.12, 12exs., 2008.3.15, 5exs., 2008.3.20, 3exs., 2008.3.23, 3exs.
 フサヒゲオビキリガ 2008.3.12, 3exs., 2008.3.15, 1ex., 2008.3.20, 1ex., 2008.3.23, 1ex. (安達誠文採集)
 ハネナガモクメキリガ 2008.3.23, 1ex.
 キバラモクメキリガ 2008.3.12, 11exs., 2008.3.15, 3exs., 2008.3.20, 7exs., 2008.3.23, 2ex. (安達誠文採集)

4 興味深い種と須磨鉢伏山の環境の変化

須磨鉢伏山ではイチゴキリガ、ヤクシマキリガ、アヤモクメキリガ、サヌキキリガ、ナワキリガが挙げられる。有馬富士公園はミスジキリガ、ウスミモンキリガ、ゴマダラキリガ、イチゴキリガ、ミツボシキリガが挙げられる。ヤクシマキリガ、ウスミモンキリガ、ミツボシキリガ、ナワキリガはその場所の植生を示す種でヤクシマキリガはウバメガシ、ウスミモンキリガはハンノキ、ミツボシキリガはエノキが植わっていることを示す。また、ナワキリガは暖温帯性で常緑カシ林と分布が一致することから須磨鉢伏山の植生を表していると言える。

アヤモクメキリガは幼虫が多数見付き、多種の植物につくが、糖蜜採集ではあまり得られない。フェロモントラップで多数得られると筆者は聞いたことがあるが、糖蜜採集ではあまり得られないので興味深いキリガに挙げた。

イチゴキリガ、サヌキキリガ、ゴマダラキリガは一般的に少ないといわれるキリガで特にイチゴキリガはつかみどころがない、サヌキキリガは稀といわれている。ミスジキリガは里山的環境に依存するキリガで、近年激減し

ているキリガの1つである。

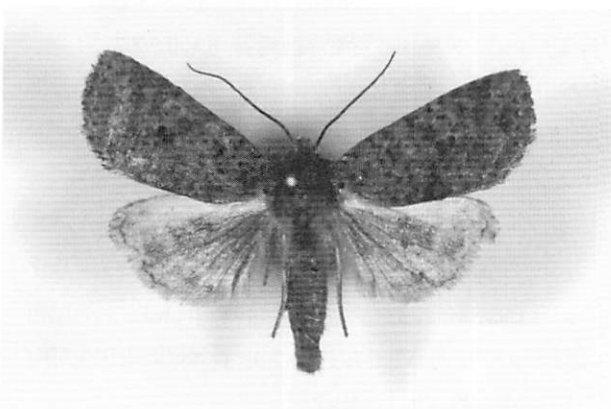
須磨鉢伏山では、八木(1998)によって、25種の記録がある。今回の調査では稀なサヌキキリガがわりと多数得られたが、1989～1990年の時点では得られなかった。これは須磨鉢伏山の環境の変化を示しているものかもしれない。また、1990年2月の調査でヤクシマキリガが今回の調査より、はるかに多く得られていた。以上のことから、須磨鉢伏山はサヌキキリガが好む環境になった。ヤクシマキリガの食餌植物であるウバメガシに何らかの変化が起こったと考えられるが2007～2008年の調査は不十分だったため、そうでない可能性も大いにある。

5 反省と今後の課題

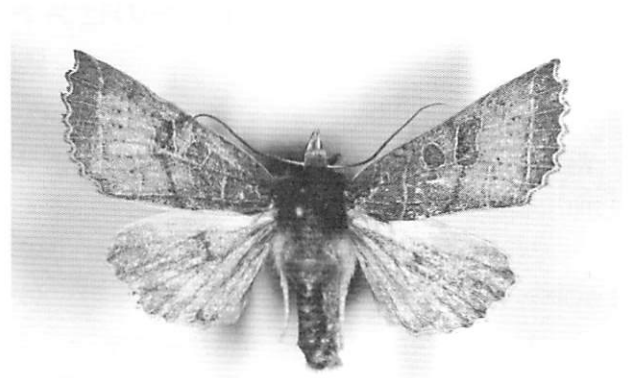
反省は須磨鉢伏山では早春、有馬富士公園では晩秋の調査をほとんどできなかったことである。2つの調査地ではそれぞれ興味深いキリガが得られたが、キリガ相が分かるほどの調査には至らなかった。また、*Sugitania*属、*Conistra*属などは同定があやふやだった。今後はもっと修行を積みねばならない。

謝辞

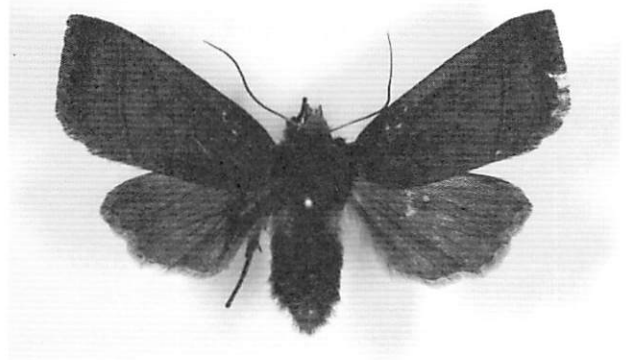
須磨鉢伏山、有馬富士公園のキリガの採集記録を提供して下さった小西堯生氏、安達誠文氏、船元祐亮氏、文献の提供、本報文の書き方などのアドバイスを下さった八木剛氏に深い感謝を申し上げます。



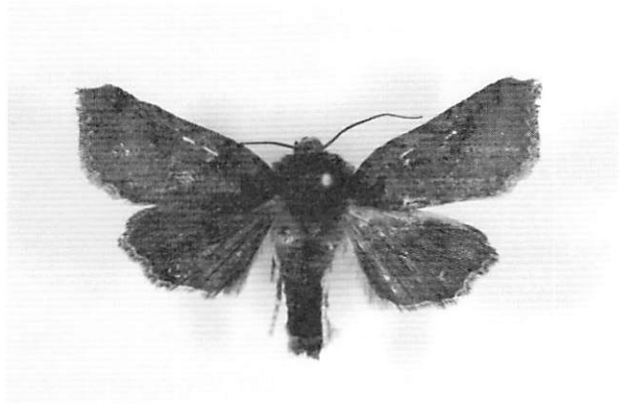
ゴマダラキリガ



サヌキキリガ



ナワキリガ



ヤクシマキリガ

文献

八木 剛, 1998. 六甲山系布引公園および鉢伏山のキリガ類相. きべりはむし, 26: 67-74.